

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12333

研究課題名（和文）大学生へのデートDV予防を目的とした系統的な教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Systematic Educational Program to Prevent Intimate Partner Violence (Dating DV) for College Student

研究代表者

長谷川 美香（Hasegawa, Mika）

福井大学・学術研究院医学系部門・教授

研究者番号：90266669

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、心理的デートDVに関する態度を測定するJustification of Verbal/Coercive Tactics Scale (JVCT)と、身体的デートDVに関する態度を測定するAttitudes About Aggression in Dating Situations (AADS)の日本語版尺度を開発し、その尺度を用い、研究者が開発した大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証した。その結果、心理的DVに関する認識は有意な上昇傾向が確認された ($p=0.056$) が、身体的DVに関する認識の有意な向上は確認できなかった ($p=0.698$)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、国内では研究報告の少ない大学生対象のデートDV予防教育プログラムを開発することである。また、教育プログラムの評価指標として、海外で開発されたJVCTとAADSの2つの尺度を、日本の文化、価値観等を考慮した日本語版測定尺度に改良することである。本研究の社会的意義は、本教育プログラムの開発により、大学生のデートDV予防のための知識の向上、態度の変容を促す具体的な方法を提示できる。また、本教育プログラムは、将来的には中学校から大学までの発達段階、交際の程度に応じた系統的なデートDV予防教育プログラムの骨格となることが期待されることである。

研究成果の概要（英文）：This study developed the Japanese version of the Justification of Verbal / Coercive Tactics Scale (JVCT), which measures attitudes related to psychological dating DV, and the Attitudes About Aggression in Dating Situations (AADS), which measures attitudes related to physical dating DV. Then, using these scales, the effectiveness of the dating DV preventive education program developed by researchers for college students was verified. As a result, there was a significant increase in the perception of psychological DV ($p = 0.056$), but no significant improvement in the perception of physical DV ($p = 0.698$).

研究分野：看護学 地域看護学 公衆衛生看護学

キーワード：デートDV 大学生 予防 教育 プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 米国では、暴力が女性や子どもの身体的、精神的健康状態を阻害するという多くの報告 (Freund.1996, Bergman.1999) があり、それゆえ暴力は健康上の問題として人々に理解されている。我が国においても、配偶者や恋人から「殴られる、蹴られる等の身体的暴行を受けたことがある」と答えた女性は 15.4% (内閣府、2014) と、男女間の暴力が日常的に起こっていることを示している。DV 被害を減少させるには、恋人との交際が始まる青年期の人々を対象としたデート DV を予防するための教育が重要である。そこで、過去 10 年間の国内のデート DV 研究を医学中央雑誌 Web 版にて検索した結果、101 件が抽出され、その内、教育プログラムの実施と評価に関する報告は 4 件、また、教育プログラムの対象者は大学生・高校生が 1 件、高校生のみ 2 件、16~25 歳が 1 件であった。我が国では、デート DV 被害のハイリスクグループである大学生を対象としたデート DV 予防教育プログラムに関する研究は、非常に少なかった。

(2) 欧米では、デート DV に関する態度を量的に測定できる、信頼性・妥当性の高い尺度が開発されているが、日本ではそのような尺度は見当たらない。また、デート DV に関する態度は、文化、価値観、性行動の実態等の影響を受けるため、我が国の状況を考慮した尺度を開発することが必要である。

2. 研究の目的

(1) デート DV 予防教育プログラムの評価指標の 1 つとなる、心理的デート DV に関する態度を測定する日本語版 Justification of Verbal/Coercive Tactics Scale (JVCT) と、身体的デート DV に関する態度を測定する Attitudes About Aggression in Dating Situations (AADS) を作成し、これらの尺度の信頼性を検討する。

(2) 研究者が開発した大学生対象のデート DV 予防教育プログラム(案)を改良する。デート DV に関する態度を測定する 2 つの日本語版尺度を用い、改良版教育プログラムの有用性を検証し、デート DV 予防教育プログラムの更なる改善点を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 日本語版尺度の作成

JVCT と AADS について、研究者、医学系論文翻訳業者 2 名が各尺度を構成する項目を日本語に翻訳し、日本語版仮尺度を作成した。次に、日本語への翻訳にかかわっておらず英語の尺度原版をみていない医学系論文翻訳業者 2 名が、JVCT と AADS の 2 つの日本語版仮尺度を英語へ翻訳する逆翻訳を行った。逆翻訳の内容は、研究代表者、分担者として確認し、各々の尺度原版との概念同一性を確保した。原版の JVCT 尺度は 12 項目から構成され、各行為に対し男性が女性に行った場合、女性が男性に行った場合のそれぞれについて、どの程度その行為を正当化できるかを問うものである。また、原版の AADS 尺度は 10 項目から構成され、各項目の強調個所の行動について、どの程度同意できるかを問うものである。日本語版 JVCT、日本語版 AADS それぞれの妥当性、整合性を検証するため、両尺度(案)を調査項目に含む質問紙を作成し、大学生 334 人を対象に、留め置き法による無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、対象者の属性、恋人との交際経験の有無、日本語版 JVCT(案)、日本語版 AADS(案)等であった。2 つの仮尺度の内的整合性については、尺度全体のクロンバックの係数を算出した。

(2) 改良版大学生向けデート DV 予防教育プログラム(案)の改良とその評価

デート DV に関する知識、態度の向上を目的とした予防教育プログラムは、行動変容に関する諸理論、DV に関連する理論、DV に関する先行研究結果を参考に改良した。改良版教育プログラム(案)の妥当性、実施可能性については、X 県内の配偶者暴力相談支援センター女性相談員から助言を得て確認した。大学生 168 名を対象に、完成した改良版デート DV 予防教育プログラムを実施し、デート DV に関する知識、態度の変化について、教育プログラム実施前後で評価した。その際、日本語版 JVCT、日本語版 AADS を評価指標の 1 つとして活用し、改良版デート DV 予防教育プログラムの有用性を検証した。

4. 研究成果

(1) 日本語版 JVCT 尺度

日本語版 JVCT(案)の Cronbach の係数は 0.840 であり、本尺度(案)の内的整合性の高さが検証された。日本語版 JVCT の調査項目は、以下の通りである。また、回答は「いかなる状況でも正当化できる(1点)」から「いかなる状況でも正当化できない(5点)」の 5 段階とし、合計得点(60 点満点)が高いほど心理的デート DV に対する認識が高いことを示す。

彼女/彼氏に対し侮辱や汚い言葉を使う
二人の問題を話し合う際、ふて腐れる
彼女/彼氏を殴って部屋・家から出ていく
彼女/彼氏を怒らせるような言動をとる

彼女／彼氏の家族や友達と会い、話をするを妨げる
彼女／彼氏の家族や友達を、彼女／彼氏と敵対させる
彼女／彼氏を彼氏／彼女に依存させる
彼女／彼氏との付き合いに、彼氏／彼女の家族が口出しする
彼女／彼氏の友達に嫉妬し、疑いの目を向ける
彼女／彼氏の男／女友達に嫉妬する
どこにいたのかと彼女／彼氏を追求し、答えさせる
彼氏／彼女以外の男性／女性とデートしたことを責め立てる

(2) 日本語版 AADS(案)の作成

日本語版 AADS (案) の Cronbach の 係数は 0.893 であり、本尺度 (案) の内的整合性の高さが検証された。日本語版 AADS の調査項目は、以下の通りである。また、回答は「とても同意できる (1 点)」から「全く同意できない (6 点)」の 6 段階とし、合計得点 (60 点満点) が高いほど身体的デート DV に対する認識が高いことを示す。

彼氏が友達の前であなたを尻軽女呼ばわりしたので、激怒したあなたは彼氏を引っぱたいた
彼氏があなたにしつこく付きまとい離れないので、彼氏を突き飛ばした
彼氏があなたのヘアカット後の髪形を日本人形みたいだと馬鹿にしたので、激怒したあなたは彼氏を突き飛ばした
激しい言い争いの際、彼氏があなたを何度も乱暴に突き飛ばしたので、あなたは彼氏を叩いた
あなたが密かに他の誰かと付き合っていることを知ったので、激怒した彼氏があなたを引っぱたいた
あなたが友達の前で彼氏のことをからかい続けたので、カッとなった彼氏はあなたを突き飛ばした
男友達とあなたがイチャイチャしている現場を彼氏が押さえたので、怒り狂った彼氏があなたとイチャついていた男友達を殴った
あなたが自分と別れると脅したので、激怒した彼氏はあなたを叩いた
彼氏が英語の試験にも合格できないほどの学力だとあなたがからかい続けたので、カッとなった彼氏があなたを引っぱたいた
男友達とあなたがイチャイチャするのを見て激怒した彼氏は、あなたを叩きその男友達と関わらないよう言った

(3) 改良版デート DV 教育プログラム

デート DV に関する知識、態度の向上を目的としたデート DV 予防教育プログラム内容は、DV とは何か、DV の実態、パワー (権力) とコントロール (支配)、DV が女性の健康に与える影響、暴力関係にとどまる理由、暴力をふるう理由、友達が恋人から暴力を受けている・行っている時の対応、あなた自身が恋人から暴力を受けている・行っている時の対処法とした。また、教育方法は、講義、グループワークの手法を用い、教材は視聴覚教材、配布資料にて、90 分の 2 回シリーズの教育プログラムを完成させた。

(4) 改良版デート DV 予防教育プログラムの評価

大学生 168 名を対象に、デート DV 予防教育プログラム実施前後の日本語版 JVCT、日本語版 AADS の各々の合計得点を比較した。日本語版 JVCT 合計得点は、教育プログラム受講前の平均 43.2 (SD8.14) から受講後は 44.8 (SD8.4) に変化し、心理的 DV に関する認識は有意な上昇傾向が確認された ($p=0.056$)。一方、日本語版 AADS 合計得点は、教育プログラム受講前の平均 48.9 (SD5.7) から受講後は 49.1 (SD5.1) と若干上昇はみられたが、身体的 DV に関する認識の有意な向上は確認できなかった ($p=0.698$)。これは、身体に対する暴力は、暴力であるという認識がもともと高いことが理由として考えられる。内閣府の女性に対する暴力の調査結果の推移を見ると、身体的暴力を「何度も受けた」または「1~2 度受けた」と答えた女性の割合は、2002 年 23.0%、2008 年 24.9%、2014 年 25.9%と増加の一途を辿っていた。このように、身体的暴力被害が身近に存在している状況からも、すでに身体的暴力に対する認識が比較的高かったと考えられる。

<引用文献> 長谷川美香、北出順子、夏梅るい子、大学生の身体的・心理的デート DV (domestic violence) の認識、第 49 回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション、2019、111-114

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 長谷川美香, 夏梅るい子	4. 巻 49
2. 論文標題 大学生の身体的・心理的デートDV (domestic violence) の認識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション	6. 最初と最後の頁 111-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Mika Hasegawa, Junko Kitade, Ruiko Natsume
2. 発表標題 Current Status of Domestic Violence Counseling in Rural Japan
3. 学会等名 World Nursing and Health Care Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川美香, 北出順子, 夏梅るい子
2. 発表標題 X県におけるDomestic Violence (DV) 相談の実態と特徴
3. 学会等名 全国国保地域医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川美香, 夏梅るい子
2. 発表標題 大学生の身体的・心理的デートDVの認識
3. 学会等名 第49回日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Hasegawa, Junko Kitade
2. 発表標題 College Student Awareness of Physical and Psychological Dating Violence
3. 学会等名 6th Violence in the Health Sector (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Hasegawa
2. 発表標題 Awareness of psychological violence committed by romantic partners and attitudes toward love
3. 学会等名 3th World Congress on Nursing & Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mika Hasegawa
2. 発表標題 University students awareness of intimate partner violence and attitudes toward love
3. 学会等名 3th World Congress on Public Health, Nutrition & Epidemiology (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	米澤 洋美 (Yonezawa Hiromi) (10415474)	福井大学・学術研究院医学系部門・准教授 (13401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	北出 順子 (Kitade Junko) (80509282)	福井大学・学術研究院医学系部門・講師 (13401)	
研究 分 担 者	川口 めぐみ (Kawaguchi Megumi) (40554556)	福井大学・学術研究院医学系部門・講師 (13401)	